

日本を代表する連立式平山城

松山城

小説『坂の上の雲』の冒頭にも描かれている松山城は、慶長7(1602)年より、築城の名手・加藤嘉明が標高132メートルの勝山に城を築き始め、この土地を松山と名付けました。日本で12カ所しか残っていない、江戸時代以前に建造された天守を有する城郭の一つです(現存12天守)。2020年にはトリップアドバイザー「旅好きが選ぶ!日本人に人気の城ランキング2020」で第3位にランクインした人気の城です。国の重要文化財21棟を含む、51棟の建造物が立ち並ぶほか、VRやARで城の魅力を楽しむことができます。



松山を見守る優美な天守。最上階からは松山の街を360度見渡せる。



松山城二之丸史跡庭園は、平成25年10月1日に「恋人の聖地」として、NPO法人 地域活性化支援センターから認定されました。ロマンティックでプロポーズにふさわしい場所として評価を受けたもので、松山市内では初の認定となりました。



松山城マスコット
キャラクター
よしあきくん



松山城二之丸史跡庭園

DATA

所在地/松山市丸之内
電話/089-921-4873
時間/(天守)9時~17時
(季節によって異なる)
30分前札止め
観覧料/(天守)大人520円

近代俳句の祖・正岡子規の世界が広がる

松山市立子規記念博物館



俳句・短歌の革新で知られる正岡子規の自筆の俳句・短歌や絵、友人にあてた手紙など、約7万点の資料を収蔵。子規の生涯を学ぶことができる常設展や各種企画展を通し、子規の世界を身近に感じるとともに、松山の文化や歴史なども知ることができる文学系の博物館です。



正岡子規

(まさおか しぎ)

慶応3(1867)年～明治35(1902)年

松山生まれの俳人、歌人にして明治時代を代表する文学者の一人。本名は常規(つねのり)。俳句・短歌・随筆など多方面にわたる創作活動を行い、写生文を提唱し日本の近代文学に多大な影響を及ぼしました。また高浜虚子ら後継者の育成にも努めました。



◆愚陀佛庵(ぐだぶつあん)

静養のため松山に帰省した正岡子規と、愛媛県尋常中学校の英語教師として松山に赴任していた夏目漱石が、52日間の共同生活を送った愚陀佛庵。その一部を館内3階に復元展示しています。

DATA

所在地／松山市道後公園1-30

電話／089-931-5566

開館時間／9時～17時(5～10月は～18時)

休館日／火曜日(祝日の場合は翌日)

観覧料／一般400円(高校生以下無料)